

ネギ

今年度の栽培面積は39.6haで、主に新規法人や若手就農者などの担い手生産者による作付けが拡大しています。定植後から5月中旬までは最低気温が例年を下回った日が多く、6月下旬まで乾燥状態が続き、苗の活着(根張り)が遅れた圃場が多く見られました。夏ネギでは、その乾燥と6月下旬の高温や低日照によるストレスが原因と思われる「葉先枯れ」が、例年以上に見受けられました。根の張りが十分でない状態で8月の豪雨によって冠水した圃場では、停滞水がしばらく抜けられない状態が続き、乾燥と急激な降雨によるストレスや長時間の浸水による「根腐れ」が発生し、生育の停滞に繋がりました。ハモグリバエB系統と思われる個体の被害が10月下旬まで続いた圃場や、シロイチモジヨトウによって葉折れするほどの食害があった圃場もありましたが、全体的には通常の防除ローテーションで病害虫が防除され、大きく問題となる被害や罹病程度はありませんでした。

また、夏場の降雨や高温が続いたことで「軟腐症状」が多く見られ、収穫量が昨年より落ち込みましたが、平均単価は向上し、12月末現在で販売額1億360万円、出荷量526トンとなりました。

生産量全体の7割近くを県外へ出荷し、今年度から始まった「NAMAHA GE AGRI YELL PROJECT」のプロジェクトメンバーによる県外市場への安定供給に向けた生産量の確保や品質向上に取り組みました。今後も引き続き計画・契約出荷をベースとして、市場への安定供給や販路拡大に取り組んで高単価販売へ努力してまいります。



6月29日(水) 夏ネギ栽培研修会

ダリア

今年度の作付面積3.8ha、出荷数量21万本、販売額4,100万円と、計画未達成であります。年々販売額が増加しています。

8月の長雨や曇天、9月の高温によって管内の圃場では生育不良や停滞の被害が発生しました。全国的にも天候不順の影響から出荷量が減少しており、年間を通して高単価で推移しました。

販売促進活動では、8月31日にJA秋田なまはげ、秋田市、男鹿市、潟上市の「農家のパーティ」ネットワーク(秋田中央地域地場産品活用促進協議会)によるトップセールスを東京都の大田市場で実施し、JA秋田なまはげ産の菊とダリアをPRして、品質のよさを買参人へ紹介しました。



10月22日(土) 雄和園芸集出荷施設

メロン



7月12日(火) メロン目揃え会

昨年は残雪が多かった影響などから、メロンの播種作業が例年より2日程度遅めで進みました。トンネル栽培の「秋田美人」については、果実肥大期に降雨が少なく、マルチ下の肥料効果が抑制されてトンネル栽培圃場の玉肥大の抑制への影響が大きく、全体的に小玉傾向での出荷となりました。

販売単価は出荷の開始から終わりまで高く推移し、1ケース当たり2,796円(前年度比122%)と、近年に見ない高単価を記録しました。販売額は1億1,857万円、出荷量は4万2,404ケースとなりました。

